

農作物技術情報 第5号 畜産

発行日 平成24年7月26日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

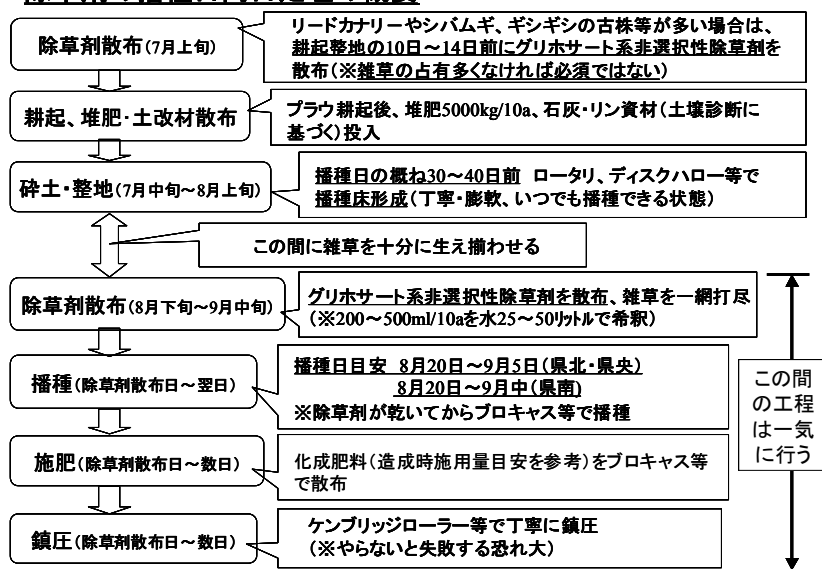
- ◆ 除草剤の播種日同日処理の播種床を準備する時期です。耕起、碎土、整地作業は丁寧に、膨軟な播種床を作成しましょう。
- ◆ 二番草収穫後のスジキリヨトウの食害に注意しましょう。
- ◆ 電気柵を設置し、クマのトウモロコシの食害を防ぎましょう。
- ◆ 牛舎環境の制御、嗜好性の良い粗飼料、夜間給与など、暑熱の影響の緩和に努めましょう。

1 草地管理

(1) 除草剤の播種日同日処理における播種床の作成

- ア 永年草牧草は、8月下旬から9月中旬を目安に播種しますが、播種の約30日前(7月中旬から8月上旬)に播種床を予め形成し、雑草を十分に生育させます。
- イ 前植生処理が未実施の場合は、速やかに非選択性除草剤を散布するか刈払を行います。
- ウ 耕起作業では、ルートマットが確実に土壌の下層にすき込まれるように、または確実に土壌と混和するよう十分な深さを確保します。耕起作業の良否が次ぎの碎土・整地作業の精度に影響します。
- エ 堆肥は、10アールあたり5tを目安に散布します。炭カルなど土壌改良資材を必要量施用します。
- オ 碎土・整地作業は、ルートマットが確実に土壌と混和するよう、また施用した堆肥や土壌改良資材が十分に土壌と混和するよう丁寧に行います。十分に碎土された膨軟な播種床は、牧草の発芽と定着を高めます。

除草剤の播種日同日処理の概要



(2) スジキリヨトウによる牧草の食害に注意

平成22年度の2番草収穫後、スジキリヨトウによる食害が滝沢村と県南部で多発しました。今のところ注意情報は出ていませんが、スジキリヨトウは老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生するので、本年度も注意して下さい。

食害により、草地が一部枯れたようになり、裸地が拡大して行きます。幼虫が大きくなると薬剤が効かないので、早期発見と薬剤防除が必要です。



スジキリヨトウ(幼虫)



スジキリヨトウ(成虫)



食害を受けた草地。イネ科植物を好んで食害し、シロクローバ、ギンギンが残る。夜間に活動が活発になるなどの特徴。

スジキリヨトウ

老齢幼虫で越冬し、夏期高温年に大発生する。大発生した場合、草地在枯れたようになる。

幼虫の第1世代は6月下旬から7月上旬、第2世代は8月下旬から9月上旬に発生密度が高くなり、被害が大きいの第2世代である。本県では年2世代の発生であるが、夏期高温年は3回目の成虫が発生することもある。

幼虫は約25mm以下の大きさ。幼虫の期間は26-30日間。最初は黄緑色であるが、大きくなるに従って褐色を帯び、中央と背面両側に茶色の縦縞ができる。

草丈の長い所に、白い卵塊が産み付けられる。ふ化までは、第1世代で9-12日間、第2,3世代で6-7日間。

2 クマによる飼料用トウモロコシの食害回避

(1) 電気柵の設置

電気柵は、電気ショックを経験させて、動物の心理的バリアーを構築することにより圃場への侵入を防ぎます。物理的な柵ではないため、必ず侵入前に設置し、電気ショックを経験させます。

ア 設置時期

クマはトウモロコシの子実を好んで、圃場内へ侵入します。トウモロコシの出穂前(7月下旬~8月上旬)には設置を完了します。

イ 漏電の防止

アースを確実に設置します。電気柵は草などに触れて漏電すると効果が劣り、侵入の一番の原因となります。こまめに草刈りを行うか、電牧設置場所の周囲に除草剤散布を行いましょう。また、設置後も定期的なチェックを行い、漏電による電圧低下を防止しましょう。

ウ 設置方法

3段張りが一般的です。クマは地面を掘って侵入するが多いため、1番下の電気柵は地面から20cmの位置に設置します。また、圃場のくぼみの部分はポールを増設します。より効果を高める方法として、電気柵の外側にもう1つの電気柵(トリップ柵)を設置する方法があります。トリップ柵はメイン電気柵の外側30~50cm、地面から20~30cmの高さに1本設置します。(写真参照)

(2) 設置費用

ア 外周600mの場合(2ha前後)

[電牧器(バッテリー収納型)・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ]で10万円前後

イ 外周300mの場合(1ha未満)

[電牧器(電池型)・グラファイポール・ポリワイヤー3段、クリップ]で6万円前後
支柱等、自己調達可能な資材を使用することで設置コストはさらに低減可能です。

電気柵設置に係る詳細と相談は最寄りの農業改良普及センターまでお問い合わせください。



トリップ柵を追加したトウモロコシ圃場の電気牧柵

3 暑熱の影響の緩和（乳牛）

本格的な暑さに向け、飼料給与を点検しましょう。

- (1) 輻射熱や直射日光の遮断、換気・送風量の確保により、乳牛の体感温度を低下させます。
- (2) 新鮮な水を十分に飲水できるようにします。水槽の掃除はこまめに行います。
- (3) 嗜好性の良好な粗飼料の給与に努めます。適期収穫で、調製品質の良いものが望ましいです。嗜好性がやや劣る粗飼料の場合は、少量ずつ給与する、配合飼料など嗜好性の良いものを粗飼料に少量ふりかけるなど、採食意欲を高める工夫をします。
- (4) 外気温が低下する夜間から早朝にかけても粗飼料が採食できるよう給与量を増やす、就寝前のエサ押しなどを検討下さい。
- (5) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分が低下し始めたら、次ぎの対応を検討下さい。

ア 粗飼料の摂取量、反芻回数とだ液分泌量が減少するため、配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、ルーメン pH 低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす、重曹（100～200g/日・頭）の給与などを行います。

イ エネルギー補給のため、綿実や糖蜜など糖分の給与も有効です。綿実の場合、ルーメン微生物の活性と乳脂肪分率の維持を考慮し、給与量は1頭あたり1日2kgが上限です。大豆油やパーム油を原料とするバイパス油脂の給与もルーメン微生物の活性を阻害せずエネルギー補給できるの有効ですが、リノール酸含量が多いものは、繁殖に有益であっても乳脂肪合成を阻害する場合がありますので、給与量は推奨量を参考とします。また、ルーメン pH が低下する場合、乳脂肪合成を阻害する作用が強くなる場合がありますので、併せてルーメンアシドーシスに注意します。

ウ 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10から20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹を補給し、リン酸カルシウムを増給します。

次号は8月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 屋内では遮光や断熱材の施工等により、作業施設内の温度が著しく上がらないようにするとともに、風通しをよくし、室内の換気に努めること。作業施設内に熱源がある場合には、熱源と作業者との間隔を空けるか断熱材で隔離し、加熱された空気は屋外に排気すること。

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。